

見学者コースガイド

①中央制御室

クリーンセンター内の装置の運転状況を24時間監視し、操作するところです。中央制御室前のガラスにあるボタンをタッチすると、ごみの焼却量、焼却炉の温度、排ガス規制値、発電量を見ることができます。



②プラットフォーム & 可燃ごみピット

プラットフォームは可燃ごみ収集車が集めてきたごみをピットへ投入するところです。可燃ごみピットは、1日に焼却できるごみの約6日分を貯めることができます。ごみは均一に燃えるように、ごみクレーンで十分に混ぜ合わされた後、焼却炉に投入されます。



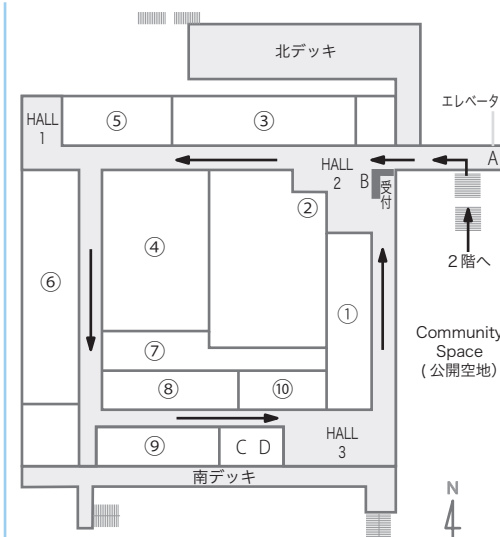
③ガスコージェネレーション

都市ガスを使って、圧縮・燃焼した高温ガスを発生させ、それをガスタービンに送り回転させて発電し、その後の廃熱で蒸気を発生させる設備です。平常時の補助発電として、災害時のスタート発電として使用します。



④焼却炉室

焼却炉室は、焼却炉、ボイラ、エコノマイザ、ろ過式集じん装置が配置され、焼却処理、高温高圧蒸気の発生、排ガス処理を行なうところです。焼却炉は、階段状の火格子の上で、ごみをゆっくり動かしながら2〜3時間かけて完全燃焼させ、灰にする装置です。



⑤蒸気タービン発電機

ごみを燃やしてつくられた高温・高圧蒸気を使って発電する設備です。タービン内には6枚の羽根車があり、蒸気力で1分間に約8000回転し、1時間あたり最大2650kw（一般家庭約6000世帯分）を発電することができます。



⑥蒸気復水器

1分間に約200回転する直径約4.5mの大きなプロペラで、発電使用後の低圧になった蒸気を冷やし、水に戻してボイラへ送る装置です。水から蒸気へ、蒸気から水へ・・・と循環しています。



⑦灰選別設備

ごみを燃やしてできた灰は、磁力選別機、灰破砕機、粒度選別機により、金属類を取り除いて、エコセメント化するための基準に適合した灰にする設備です。



⑧灰ピット & 灰クレーン操作室

灰選別設備で金属類を取り除いた後の灰が灰押し装置の中で水に浸され押し出されて、貯まるところです。灰はクレーンで車に積み込まれ、日の出町ツ塚最終処分場エコセメント化施設に運ばれます。



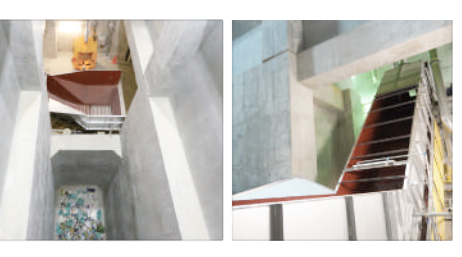
⑨不燃・粗大ごみ選別機

燃やさないごみや粗大ごみを破砕機で細かく砕いた後、磁力選別機により、鉄やアルミなどの資源物を回収する装置です。残った木片、廃プラスチックなどは可燃ごみピットへ送られます。



⑩不燃・粗大ごみピット

燃やさないごみや粗大ごみを貯めるところです。ここから、クレーンでコンベアに運ばれ、破砕機へ進みます。



ユニバーサルデザイン

安心して見学いただけるようユニバーサルデザインに配慮しています。

- A エレベーター
- B 点字パンフレット（7月より）・筆談具
- C だれでもトイレ（車椅子、ベビーカー）
- D 授乳室（ベビシート）

*展示物は日英表記
*避難用フラッシュライト、音声付き誘導灯完備

見学者コースをもっとたのしむ！

ごみ処理をもっとわかりやすく伝えるためのコンテンツを用意しています。見学者コース内に設置されたモニターで映像などをご覧いただくことができます。また、見学者コース内の受付では、個人見学の方向けにタブレットを貸し出しています。（タブレットの貸し出しには原則、身分証明書が必要です。詳細はお問い合わせください。）



武蔵野市のごみのゆくえを紹介する映像



Pepperがクリーンセンターについて説明

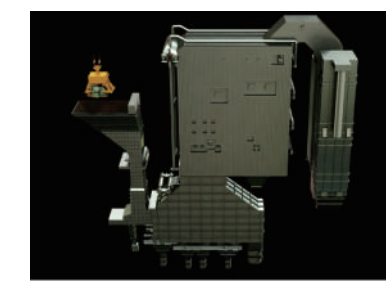
© SoftBank Robotics Corp.
本取り組みは、ソフトバンクロボティクス株式会社が提供する Pepper の法人モデル「Pepper for Biz」を活用し、武蔵野市及び株式会社もさしのE-サービスが独自に実施しています。



ごみのゆくえをクイズで学ぶ



クリーンセンターの歴史を紹介



焼却炉の仕組みを紹介するCG映像

定期的にイベントも開催します

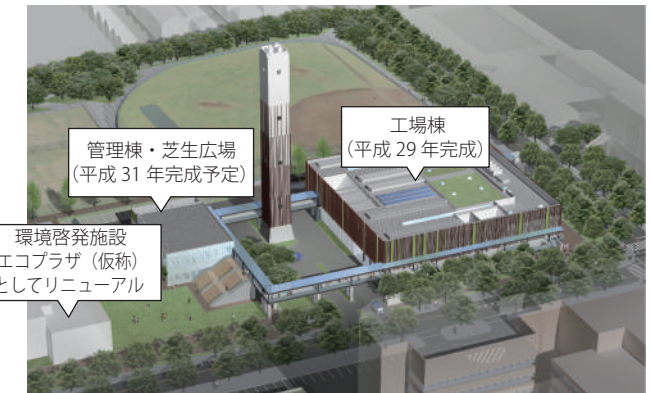


イベント開催イメージ

多くの市民のみなさまに気軽にクリーンセンターにいらしていただけるよう、ごみや環境に関する情報を発信し、環境にやさしいライフスタイルを提案するイベントも定期的に開催していきます。お楽しみに。

工事のこれから

平成29年3月末に工場棟が完成しました。今後は旧クリーンセンター（工場棟）を解体し、その跡地に見学者ホールや市の事務所などが入る管理棟、芝生広場などを整備し、工場棟とデッキをつなぎます。すべての工事完了は、平成31年度を予定しています。さらに、旧クリーンセンターの一部（事務所棟、プラットフォーム）は残し、環境啓発施設エコプラザ（仮称）にリニューアルする計画です。



施設インフォメーション

施設稼働 平成29年4月1日

見学者コースオープン 平成29年4月3日
見学時間：午前10時～午後5時
月曜日～金曜日（土日祝・年末年始休み）

団体見学は事前予約をお願いします。

予約・お問合せ先 武蔵野市環境部クリーンセンター
☎ 0422-54-1221

周辺住民の方々と話し合いを進めています



新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会は、平成28年6月から第四期となりました。クリーンセンター周辺住民の代表者・ごみに関する団体の代表者、学識経験者などが委員として参加し、新しいクリーンセンターの設備やデザインの方針などについて話し合いをしてきました。今後は、クリーンセンター周辺のまちづくりなどについての話し合いを進めていきます。

武蔵野市ホームページで協議会の議事録を公開しています
http://www.city.musashino.lg.jp/shisei_joho/shingikai/shingikai_kaijiroku/cleancenter/index.html

平成29年4月本格稼働「新武蔵野クリーンセンター（仮称）」建設事業の今をお知らせ！

新クリーンセンターニュース

平成29年3月発行 武蔵野市環境部クリーンセンター 武蔵野市緑町3-1-5 0422-54-1221

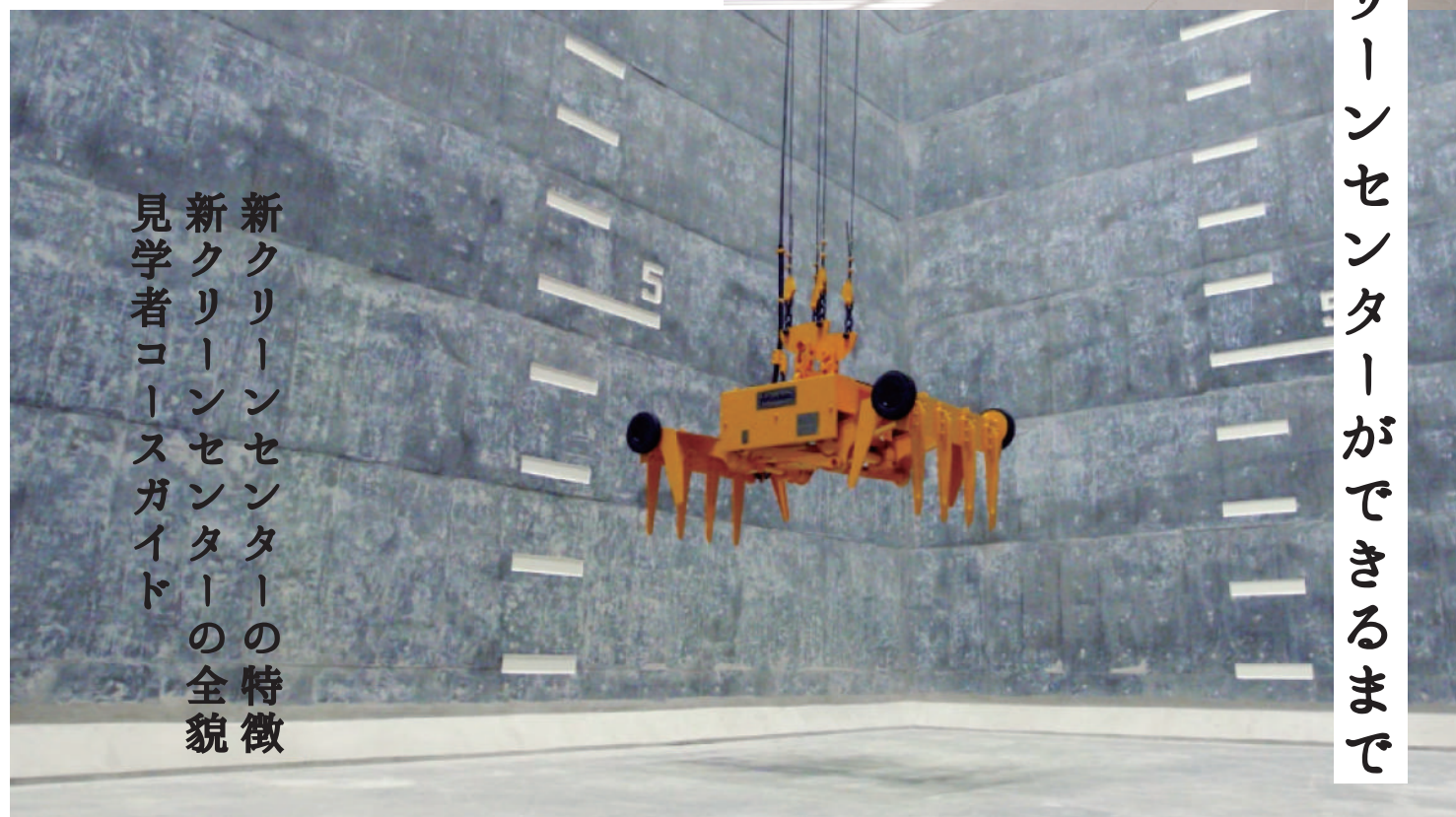
VOL.4

新クリーンセンター建設事業について

武蔵野クリーンセンターは、みなさまのお家から出る燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、有害ごみを受け入れている市内唯一のごみ処理施設です。昭和59年（1984年）に稼働を開始した旧クリーンセンターは、周辺住民の方々のご理解とご協力をいただきながら32年間にわたり運転を続けてきましたが、機械の耐用年数などの状況から昨年12月にその役目を終えました。引き続き周辺住民の方々のご理解とご協力をいただきながら、敷地内東隣に建設が進められていた新しいクリーンセンターは、昨年秋に工場部分が完成し、12月よりごみの試運転焼却を行ってきました。そしていよいよ、今年の4月1日より本格稼働となります。新しいクリーンセンターは、安全性をさらに高めた最新鋭の焼却・排ガス処理システムとごみ発電設備、ガスコージェネレーション設備の導入により、災害時も含めた公共施設のエネルギー供給拠点としての機能も兼ね備えています。また、中央通り沿いの広場を開放したり、自由に見学できる見学者コースを整備するなど、市民のみなさまに開かれたオープンなごみ処理施設になりました。新しくなったクリーンセンターにぜひお越しください！



ついに完成！新クリーンセンター
平成29年4月1日本格稼働
(2017年)

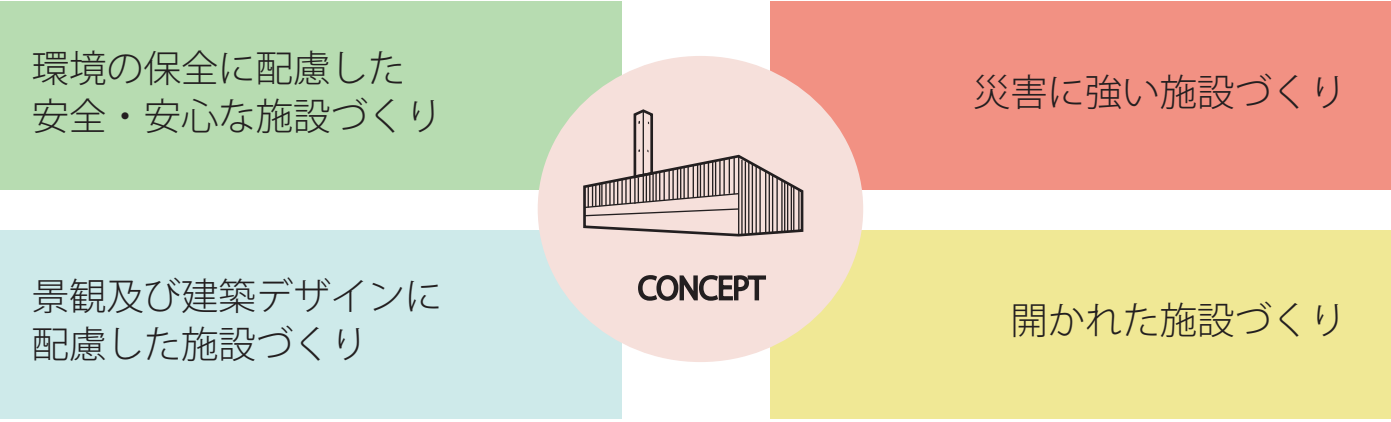


新クリーンセンターの全貌
見学者コースガイド

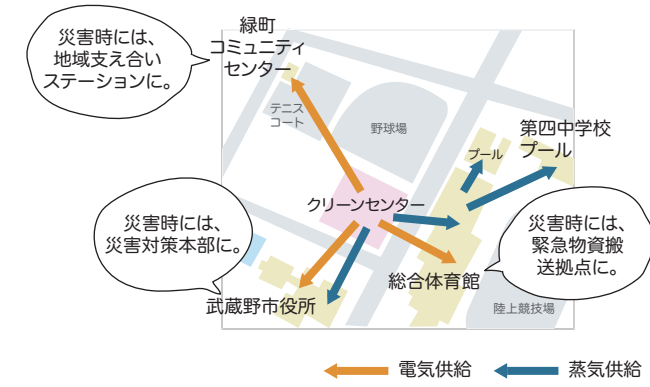
特集

新クリーンセンターができるまで

新クリーンセンターの特徴



公共施設のエネルギー供給拠点 災害時にもエネルギーを供給します！



旧クリーンセンターではごみを燃やした熱で蒸気をつくり、市役所や総合体育館、第四中学校プールに送って、給湯や冷暖房、温水プールの熱源に活用していました。新施設ではさらに、ごみ発電設備も導入し、発電した電気をクリーンセンターで利用するほか、市役所や総合体育館、緑町コミュニティセンターにも供給します。また、ガスコージェネレーションも導入し、災害時においても焼却炉を再稼働することができ、かつ市役所、総合体育館、緑町コミュニティセンターへエネルギーを供給できるシステムとしています。

いつでもだれでも自由に工場見学！

メインエントランス
東側メインエントランスよりお入りください。階段横にエレベーターがございます。

プラットホームのぞき窓
ごみ収集車がごみをおろすところが見えます。

見学者通路
雑木林の木漏れ日をイメージし、天井から自然光を取り入れました。

ホール1
クリーンセンターの歴史やごみのゆくえクイズが出てくるタッチパネル式モニターがあります。

ホール2
エネルギー供給システムについて、映像でご紹介します。

ホール3
モニターで施設の紹介VTRをご覧いただけます。

2階のフロアを一周することで、ごみ処理の流れがわかるようになっています。見学時間中（平日午前10時～午後5時）は、自由にご見学いただけます。ムーコンシェル（受付スタッフ）、貸出用タブレット、Pepperが見学のサポートをいたします。

特集 新クリーンセンターができるまで

平成20年	武蔵野市長期計画・廃棄物処理基本計画に建て替えを位置付け
平成21年	市民参加のまちづくり検討委員会の提言を受け、市の責任において整備用地を決定
平成23年	基本計画策定委員会で施設の基本仕様を提言 第一期施設・周辺整備協議会で新施設の備えるべき機能などを提言
平成25年	第二期施設・周辺整備協議会で建築デザインや配置・動線など提言 整備運営事業者決定
平成26年	新クリーンセンター工事開始
平成28年	第三期施設・周辺整備協議会で今後の施設周辺整備のあり方を提言 新クリーンセンター 工場棟完成・試運転開始（11月） 旧クリーンセンター火納め式（12月）
平成29年	新クリーンセンター本格稼働（4月）

工事ダイジェスト

平成26年5月の着工から2年半をかけ、新しいクリーンセンターの工場棟が完成しました。

地下工事

土を掘り、地下部分の建物をつくりました。

地上工事

地上の工事は鉄骨を組み立てながら、同時に工場の機械も組み立てました。

煙突つなぎかえ工事

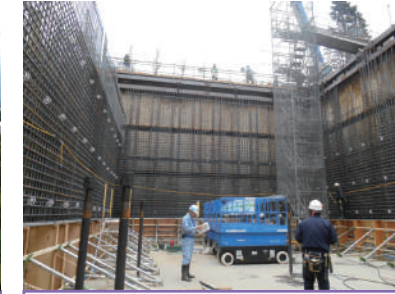
焼却炉が完成した後、煙突の内筒を旧クリーンセンターから新クリーンセンターにつなぎかえました。

仕上げ

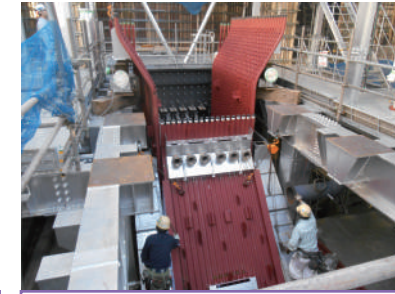
外壁や内装、外構など仕上げ工事をしました。



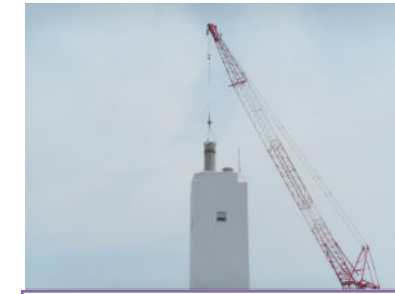
平成26年5月
工事着手



平成27年2月
地下工事（ごみピット施工の様子）



平成27年11月
焼却炉組立工事



平成28年5月
煙突内筒更新工事



平成26年秋
仮囲いアート完成



平成27年5月
地上鉄骨工事（メガトラス）



平成27年12月
プラント組み立て中の様子



平成28年12月
旧クリーンセンター火納め式

新クリーンセンターの全貌

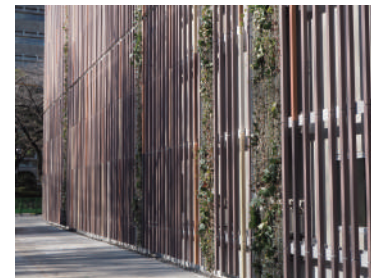
煙突

既存煙突を耐震補強し再利用しています。外装デザインは新工場のデザインに合わせて更新しました。旧工場では、蒸気を使って排ガスを温めて煙を見えなくする白煙防止装置を設置していましたが、新工場では、蒸気をより発電に使用するため、白煙を出す実験・住民アンケートも経て、白煙防止装置を設置しないことにしました。寒い冬の日には煙突から白い煙（水蒸気）が見えることもあります。



外装デザイン

高さ15mに抑えられた整形の建物は、武蔵野の雑木林をイメージしたテラコッタルーバー（格子状に配列する素焼きの外装材）と緑化によりやわらかく包み込まれています。



屋上

屋上には太陽光発電パネルを設置しました。また、生ごみ堆肥を用いた菜園、ペットボトルキャップなどの廃材や埋土種子を用いた草地进行整備しました。草地のデザインは、市内の小学生を対象として開催したデザインワークショップで出された意見を基に、クリーンセンターにごみとして搬入された鍋や植木鉢で昆虫や小鳥のすみかもつくりました。菜園や草地を活用した観察会・ワークショップを開催します。



※屋上は、通常開放していません。見学ご希望の方はクリーンセンターまでお問い合わせください。



●施設概要

敷地面積：約17,000㎡ 延床面積：約8,900㎡ 煙突高さ：59m（既存煙突再利用 / 内筒更新）
建物高さ：約15m（最高高さ17.79m） / 地上3階地下2階 発電能力：約15,000MWh / 年
処理能力：120t / 日（ストーカ式焼却炉2炉） 不燃・粗大ごみ処理施設：10t / 5時間
設計・建設：荏原環境プラント株式会社・鹿島建設株式会社 運営：株式会社むさしのEサービス（20年間）
工事監理：武蔵野市・株式会社日建設計 プラント技術支援：公益社団法人全国都市清掃会議
デザイン監修：武蔵野市・株式会社日建設計・水谷俊博建築設計事務所

焼却炉

焼却炉は2炉あります。1炉あたり1日に60トンの処理能力があります。全国で最も厳しいレベルの排ガス自主規制値を定め、最新鋭のプラント設備により、規制値以下で運転します。



地下のプラットホーム

建物の大きさを抑え、騒音やにおいに関する配慮のためプラットホーム（収集車がごみを搬入する場所）を地下化しました。出入口には高速シャッターとエアカーテンを設置し、臭いを外に出さない工夫をしています。可燃ごみピットの扉は外観デザインと合わせ、ストライプにしています。



コミュニティスペース（中央通り沿い）

プラットホームの上部には、だれでも自由に入ることで、コミュニティスペース（公開空地）を設置します。外壁にあるのぞき窓から地下にあるプラットホームを見ることが出来ます。イベントも開催することができる市民の憩いの場です。



見学者コース

だれでも自由に見学することができる見学者コースです。新工場棟の2階を一周することで、ごみ処理の流れがわかります。大きなガラス窓の向こう側にダイナミックな工場の機械を望むことができます。

